

白馬三山縦走・白馬鑓温泉山行報告

【山城】北アルプス・白馬岳

【日程】2017年7月30日（日）～8月1日（火）

【メンバー】CL 菊池・山内・杉山

【行程と天気】

1日目：曇りのち一時小雨、上部はガスで視界不良

菊池家 2:00-2:30 山内PU（事務所）-3:10 杉山PU-上信越道-長野IC-7:40 猿倉駐車場-猿倉荘 8:30-9:45 白馬尻 10:02-大雪渓アイゼン
登行 10:25-12:10 アイゼン登行終了・休憩-葱平-13:50 小雪渓横断（アイゼン装着）-村営頂上小屋-16:00 白馬山荘（泊）

2日目：曇のち晴れ。前半ガスで視界不良

白馬山荘-4:45 白馬山頂-白馬山荘 6:40-清水岳方向にお花畑散策（40分間）
-9:20 杓子岳-9:48 鞍部付近で休憩-11:11 鑓ヶ岳 12:10-12:35 鑓温泉
への分岐部-大出原（お花畑）-15:30 鑓温泉

3日目：曇り時々小雨

鑓温泉 6:15-7:45 杓子沢雪渓-11:59 猿倉-小日向温泉-帰葉



大出原から鑓ヶ岳の岩峰

【目的】

- ・私の「心のふるさと・名山」白馬岳には10回以上足を運んでいる。体力は衰えたとはいえ、盛夏には涼しい残雪とお花畑の北アルプスには是非行きたい。
- ・白馬岳初挑戦の山内さん、白馬鍾温泉初体験の杉山さんを案内する。
- ・白馬三山をゆっくり縦走、お花畑を堪能し、白馬鍾温泉を宿泊してゆっくり楽しむ。
- ・白馬三山・後立山連峰と剣岳のグレートビューを楽しむ

【1日目報告：山内記】

30日(日) 2:00 菊池：自宅を車で出発、2:30 ちば山の事務所で山内をPU、3:10 松戸市内で杉山をPUし一路、白馬を目指し関越自動車道、上信越自動車道に乗り長野ICで下車、通称オリンピック道路R148(白馬長野道路)を経て7:00 白馬に入る。

ここからバスか、タクシーで猿倉までと思っていたがたまたま駐車場に止まっていたタクシーに聞いたら猿倉の無料駐車場に空きがあるかは半々のような話しぶりで、とりあえず行って見て空きがなければ引き返してバスかタクシーでまた猿倉へと決めて、登山口の猿倉へ車をとばす

7:40 村営猿倉荘から1分ほど下がったところにある登山者用無料駐車場に奇跡的にまだ何台分かの空きスペースがあり入り口横すぐに駐車する。

標高1240メートル、ブナ林に囲まれた猿倉には、村営猿倉荘がありここで今回の登山届を提出し立派なトイレ施設で用を済ませ出発の準備をする。

「てんきとくらす」の天気予想では、登山指数Cで“風または雨が強く、登山に適していません”でそれなりの覚悟はしていましたが、直前にBに好転、雨は降らず、曇りで時々

薄日もさすほどで展望も少しは良い、いよいよ北アルプス屈指の人気コースになっている憧れの白馬大雪渓から百花繚乱の高山植物のお花畑が見られると思うと心が躍る。

山内はとくに過去2回天気が悪く中止となり今回3度目での白馬三山の山行が実現。

8:30 さっそく猿倉荘の横から立派なブナ林にはいり、すぐに林道に出て鍾温泉への分岐を見送り林道終点の御殿場から登山道に入り枝沢を横切って 9:45 白馬尻の白馬尻小屋につく。小屋前の広場を出て灌木



帯を抜け白馬大雪溪の末端にでる。

白馬尻の雪溪取り付き地点で、6本爪アイゼンがはずれないようにしっかり装着し、ストックのゆるみなど再度確認し、CLからのこれから大雪溪を登るあたりの注意としてこの白馬大雪溪では自然崩落による落石が頻繁にあり死亡事故も起こっている。「落石」には上下左右と常に全方向に注意を向けるようにと、また過去に表層雪崩に巻き込まれての死亡事故もおきているとの注意事項の説明あり。この「落石」「雪崩」にたしての注意は本当に三山の地形の状況やそこら中に落石が転がっているのを見て今回の山行全行程にいえることが実感できました。

いよいよ待望の大雪溪に第一歩、天気はうす曇り時々日もさし展望がそれなりにあり心が躍る。



前方を見れば雪溪を歩いている人はまばらで、例年ならこの期間、大雪溪を大勢の登山者が列をなして登る光景は白馬岳の夏の風物詩となっているそうだが我々を含め数人程度で登っている程度で登山者の数を数えることができる。

そのようなわけで我々ペースでゆっくりと周りの景色を見ながらそして細心の注意を払いながら、時にはカメラを構え素早く操作して登る繰り返し。赤いベンガラ(わずかに赤い程度でした)の上を踏跡からはずれないように一歩一歩足を出していき途中時々CLから杓子尾根からの落石に注意との話あり。大小のクレパスも時々見られより一層慎重になる。傾斜が急になったところを登りはじめると正面に杓子岳の岩峰・天狗菱がうす曇りの中に見え時々雲が切れ青空も見え隠れする。早くも雪溪の左側斜面にミヤマキンポウゲ(ミヤマキンバイ?)の可憐な黄色が一面に咲き、これから行く先々での高山植物のお花畑の期待がいやおなしに高まる。





12:00 雪渓上部の崩壊地を通過ししばらく急斜面登りの不安定な岩の目立つ葱平（ねぶかっぴら）の斜面で上からの落石があると言うので安全なところに移動して小休止、昼食をとる。 振り返れば大雪渓を登って来る登山者がパラパラ（本来ならアリの行列のごとく人人の行列だそうだが）と見える。

高山植物が咲く小尾根をジグザクに上り小雪渓に到着。 急斜面の小雪渓を横断し、14:30 避難小屋跡の脇を横目に上り続けるとミヤマキンポウ、ハ



クサンフクロ、イワオウギなどなどいろいろなお花が咲いていて写真を撮りまくる。 花を見ながら急な登りがつづきやがて 15:30 村営頂上宿舎につきほっと一息ついて、



広々とした主稜線に出て登っていく道の両側はウルップソウの群生が見られ、さらに見渡す限りの高山植物群がみずみずしく咲き乱れ花の山にふさわしい百花繚乱の光景に感動しながら、あの花この花の群れに写真を撮るに任せやがて本日の宿泊する 16:00 日本で初めての山小屋の白馬山荘に到着。本来ならこの時期は白馬で一番良い期日であるので登山者でごった返し、泊まるのも一畳3人とかの状態、食事も5~6回に分けられてとることになるが 本日、我々は宿泊の手続きもすぐに終え、2回目の夕食時間 17:40 まで余裕があるため、展望レストランの「スカイプラザ」で待望の生ビールのジョッキーで乾杯、いやーこのおいしいこと！！

だが、やはり良いことづくめではなく外は霧雨模様で展望が悪くスカイプラザの窓越しに本来なら見える杓子岳、鑓ヶ岳、劔岳が見られず残念。

宿泊人数は、前日は400人であったが、この日は200人と少ない。旧館は一杯であるが、われわれはきれいな新館の20畳ほどの部屋に6人でそれこそゆったり状態での白馬の一日目であった。

今日振り返ってみると天候はあいにくだったが、しかし本格的な雨にあうことなく時には雲間から青空ものぞき日が差すこともありまた登山中はいろいろ高山植物のお花畑にも出合え、出発地点での猿倉の無料駐車場に駐車できたことも含め、今回の白馬三山の山行ではこの時期としては奇跡的なことがいろいろとありました。

【2日目報告 杉山 記】

白馬山頂は残念ながらガスで日の出はダメだった。菊池先生が入れてくださった香りたかいモーニングコーヒーを頂き山岳天気予報「てんきとくらす」では今日はAなので期待して出発する。



杓子岳への尾根を少し下り祖母谷温泉へのコースを雪田まで降りた所の見事なお花畑を散策する。

チングルマ、白山小桜、ハクサンイチゲ、シナノキンバイ他、蜜蜂マーヤの気分で歓声を上げた。



雷鳥の親子も活発に歩き回っていた。杓子岳の登りも菊池先生のゆっくりペースで息も上がらずのぼれた。シロウマオウギのテガタチドリのお花畑が素晴らしい白馬鍾との鞍部で撮影しながら行動食休憩を採った。白馬山荘のお弁当は評判の美味しさ、今回もCLは購入していた。鍾ヶ岳山頂へのやや急なガレ場には、可愛い勿忘草（ムラサキ科）そっくりのミヤマムラサキを発見、青空が広がってきて、ピンクのタカネシオガマが映えていた。テガタチドリの群落は素晴らしく、今度はオンダテとの共演も見られた。





鑓ヶ岳山頂で記念撮影後、白馬岳・後立山連峰のグレイトビューを期待し、グランツーリスムの団体さん（前夜、白馬鑓温泉に宿泊、悪天続きで、ヘリが飛ばず、食材不足のため、夕食はカレーとのこと、入湯税もロハで宿泊料金を 7500 円の大幅に割り引いてくれたとのこと）と談笑しながら1時間ほど待ったが、一瞬の晴れ間が広がるが、残念ながらガスが次から次へと上がってきて駄目だった。



鑓の山頂を後に、後ろ髪を引かれる思いで、いよいよ温泉目指ことにした。辛うじて、絵になる杓子岳のガレたトラバース道と鑓ヶ岳山頂下のガレ場が青空の下に姿を現した。



鑓温泉への分岐部から、残雪の多く残る大出原が俯瞰できた。大出原から青空の下、残雪と岩峰の鑓ヶ岳の迫力ある展望に大満足であった。



アイゼンなしで雪渓を横切ると豪華なお花畑の始まりです。広くて今が盛りで可憐な花達（ハクサンコザクラ・チングルマなどなど）に沢山出会えた。



小屋近くになると、鎖場が数か所ある岩場の急降で気が抜けない。ストックをしまい慎重にくださった。温泉匂がして小屋到着。毎年立替るそうだが天候不順でキャンセルが多くて私達はゆったり、このシーズンあり得ない幸せだった。ヘリが飛んで今日は食材届き美味しい夕食と白濁源泉かけ流しのいい温泉でまったりした。星と半月を見て 9 時就寝三山踏破と花を見ることができ満足の 1 日であった。

【2 日目追加：菊池 記】

小屋に到着、受付を済まし、待ちきれないアルコールタイムです。持参した金麦を残雪で冷やし、一気飲み。喉ごしは最高で堪えられない。さらに購入した氷結片手に相前後して到着した女性だけの 10 名前後の LMC (low mountain club) の皆さんと山談義となった。驚くことに 81 才が 2 名、77 才が 1 名の超高齢者グループ、白馬大池から 10 時間のハードロングルートを踏破してきたとのこと。「素晴らしい」の一言ですね。70 歳そこそこにお見受けする 81 才の極めて元気な方とご挨拶しましたが「まだまだ子供ね」と励まされるやら・・・、1 日目の大雪溪から相前後して同ルートを辿った 7 名ほどの山梨のグループ (我々と同年代か) も 2 : 1 で女性が多くこのグループとも談笑した。山での出会いも最高ですね。

ちば山の会同様、女性陣の元気さには感心させられました。すっかり酔いが回って良い気分になっていると、5 時の夕食まであと 30 分ほど、待望の露天風呂は最高でした。5 月の山スキーで入浴した時には湯の花となにかで底がドロドロ、熱さも加わって、鳥の行水程度の短時間入浴であったが、今回は清掃もバッチリ、綺麗で湯加減も最高、9 時以降にも満天の星空の元 2 回目の入浴を楽しんだ。夕食は久しぶりに飛んだヘリで間に合った美味しい食材、さらに一番搾りも購入し、計 350 cc × 3 と一人飲みすぎで、入浴は気を付けて慎重に行った。女性専用風呂 (内風呂) は小さいが乳白色で泉質が異なるが気持ちよいとのこと、8 時から露天風呂が女性時間変わった時に、男性はこの内風呂を利用できるが、今回は入浴せず残念であった。



【3日目報告】

ご来光を露天風呂で迎えようと目論んでいたが、山岳天気予報は悪化、夜明け前から露連風呂に入ったが遂に叶わなかった。朝食後、ドリップコーヒーを頂き、最終日のスタート。少し下るとアイゼン装着で少し雪渓下りがある。5月の山スキーで快適な滑走ができた雪渓である。最終日の核心は急斜面のへばりつくようについでいる登山道である。小雨が降ったり止んだりしながら杓子沢の雪渓の横断が待っていた。遠目にはやや恐怖心があったが、実際には斜度もそれほどでなく、アイゼンなしで問題なく横断できた。



その後も急斜面崩落地の直上の登山道など気が抜けなく慎重に進み危険地帯を通過、ほっとして記念撮影した。小日向の科尔直前から今回の山行の余韻に浸りながら振り返る杓子沢は迫力があつた。

小日向の科尔から間もなくニッコウキスゲの咲いているお花畑を通過急斜面のジグザグ登山道を下り、沢地形を数回渡り台地から見事なブナ林に入り間もなく猿倉手前の林道に到着した。猿倉山荘前にはタクシーが4台ほど停まっていたが、運転手さんは手持無沙汰であった。



小日向の湯で、一番手で入浴、ここでも管理人さんは「この天気ではどうしようもないね！！」と嘆いていたが、われわれが帰る頃にはそれでも次から次へと観光客が入浴を目的に駐車場に入ってきた。

一般的に、梅雨明け 10 日間は安定しているといわれており、お花畑のゴールデンタイムにこの山行を計画した。5 日間ほど融通が利くように休暇を取って万全の体制で、日程は臨機応変に変更しようと考えていた。大人気の鍾温泉は週末では超混雑とのこと（1 帖に 3 名以上）、そのため 31 日（月）に予約したが、不安定な天気が続き、山岳天気予報もめまぐるしく変化していた。直前まで決行するか、短縮日程で鍾温泉を断念するか、中止するか、迷いに迷ったが、最終的に予定通りの日程で実施できた。目的の全ては実現できなかったが、十分満足できる山行であった。同行のお二人に感謝いたします。